



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第5主日 A年(2023年2月5日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 58章7—10節

第二朗読：コリントの信徒への手紙一 2章1—5節

福音朗読：マタイによる福音書 5章13—16節

地の塩、世の光

第一朗読は『イザヤ書』58章からです。『イザヤ書』56-66章は第三イザヤと呼ばれています。捕囚からの帰還後、飢餓などで生活が疲弊し、希望と熱意を失った時代(紀元前538-500年頃)に書かれました。現実の生活の厳しさから、神への忠実を生きられなくなった人々が増えた時代です。特に58章は、主なる神がイスラエルの民を厳しく糾弾をるところから始まります(1節参照)。それは民が断食を軽んじ、信仰が形ばかりのものとなってしまったからです。(2-5節参照)。そこで、神に好まれる断食とは、人への愛のわざ(6-12節参照)であり、なおかつ神への「安息日」の行為(13-14節)の中に表されるのだと主張されています。

8節に見られる「傷」とは、富んでいる人々と貧しい人々の間にある裂け目のことと考えてよいでしょう。貧しい人にパンを与え、家に招き入れ、裸の人に衣を着せ、仲間に惜しみなく愛を注げば、その傷は癒され、裂け目の間に新しい肉が盛り上がってくるのです。

同じように飢えている人に心を配り、苦しめられている人の願いに耳を傾けていくなら、その人は光のように輝くのです(10節参照)。貧しい人、苦しむ人々への積極的な関わりこそが、主なる神が望んでおられる断食なのです。

この数週間、第二朗読では『コリントの信徒への手紙1』が読まれています。そこで取りあげられていたのはコリントの教会が直面する、分派争いという問題でした。「知恵ある者」と誇る人々が教会のなかに現れたのに対して、パウロは自分の無力さを強調します。それは神の力をコリントの教会の人々に感じさせるためでした。

朗読の最後にある「神の力」(5節)は、人の「優れた言葉と知恵」(1節)にとっては愚かに

見える「十字架につけられたキリスト」(2節)に現あらわされます。パウロが「弱さの中に」留とどまって、3節にあるように「恐れに取りつかれ、ひどく不安」(3節)の状態じょうたいから「宣べ伝える」(1節)は、そのような伝え方こそが1節の言葉「神の力」(1節)を伝える唯一無比の方法だからです。

『マタイによる福音書』5章3節から7章27節にまで続く、イエスさまの長い説教は通称「山上の説教」と呼ばれています。「心の貧しい人々は幸いである」(5章3節)と三人称複数形で語りはじめられるこの説教は、5章11節からは「あなたがたは」と二人称複数形の呼びかけに変化します。これはイエスの弟子たちと群衆へのイエスの親しみを込めた呼びかけなのです。この優しさに満ちた語りかけは7章23節まで続きます。7章24節で、「わたしのこれらの言葉を聞いて行く者は皆……」(7章24節)と、もう一度三人称複数形での語りかけに変化してイエスさまの説教は終わります。「あなたがたは」とは、イエスさまの言葉に従って生きようとする人々のことを指すのです。つまり、福音書の聞き手であるわたしたちすべてを指すのです。

説教：地の塩、世の光

13節で「あなたがたは地の塩である」と断定しています。「あなたがたは地の塩になりなさい」とは、イエスさまはおっしゃっていないことに気をつけましょう。

14節でも「世の光であれ」とは言っていない点に注意しましょう。パレスチナ地方の町は丘の上にあります。敵に攻められたときのことを想定しているからです。町を隠すことはできません。「ともしび」(15節)は部屋の中の高いところにおかなければ意味がありません。イエスさまの言葉を聞く者には、イエスさまからの光を帯びるのでしょう。その光を隠す必要はなく、世に示すべきなのです。

「地の塩」、「世の光」、どちらも深い意味が隠されているイエスさまの言葉です。これらの言葉を理解する、分かるように努力するのも悪くはないですが、お一人おひとりの人生の時々に合わせて、「地の塩」、「世の光」の意味を受け取ればよいのです。決まりきった理解で、イエスさまの言葉を分かったつもりでいるほうがむしろ危険だと思います。イエスさま、あなたの言葉の本当の意味を教えてください。と、祈っていきましょう。